



会報



天神祭の化物

THE ROTARY CLUB OF TSURUOKA
鶴岡ロータリークラブ

第747回例会 1974.4.2(火) 曇時*雪 No.38

例会日 火曜日 12時30分
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所
会長 安藤定助 幹事 小松広穂

a Time for Action

「今こそ行動のとき」

会報はご家族みんなで読みましょう

○出席報告

本日の出席		
会 員	数	65名
出 席	数	49名
出 席	率	75.38%

前回の出席

前回出席率	74.24%
修正出席数	61名
確定出席率	92.42%

欠 席 者

阿宗君、風間君、板垣君、石井君、進藤君
金井君、嶺岸君、三井(徹)君、三浦君、菅君
中江君、齋藤(得)君、齋藤(信)君、佐藤
(伊)、佐藤(昇)君、富樫君

メークアップ

高橋(良)君—東京西北RC
藪田君—仙台RC
阿部(襄)君—酒田東RC
阿部(公)君、張君、五十嵐(伊)君、進藤君
今野君、黒谷君、三井君(徹)君、富樫君
高橋(辰)君—鶴岡西RC

○ビジター

菅沢久弥君、羽根田正吉—鶴岡西RC

○点 鐘

○国歌斉唱

○ロータリーソング「奉仕の理想」

○お誕生おめでとうございます

会員誕生

飯白祐信君、今野成行君、新穂光一郎君
進藤誠一君

奥様誕生

阿部悦子(公一)様、市川芳子様
小花春子様、中江道子様
笹原郁子様、山本イト(正)様

○年間皆出席者

14年間皆出席	安 藤 定 助 君
ク	鈴 木 善 作 君
11年間皆出席	石 黒 慶 之 助 君
9年間皆出席	佐 藤 忠 君
8年間皆出席	阿 部 襄 君
6年間皆出席	上 林 一 郎 君

○3月125%出席者 6名

風間君、安藤君、金井君、小花君、高橋
(正)君、中野(清)君

3月100%出席者 48名

阿宗君、阿部(公)君、阿部(襄)君、張君、森田君、早坂(源)君、佐藤(順)君、山本(隆)君、板垣君、市川君、飯白君、山本(正)君、石井君、石黒君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、進藤君、今野君、高橋(良)君、海東君、佐藤(衛)君、上林君、黒谷君、小池君、中野(重)君、吉野君、嶺岸君、三井(徹)君、三井(賢)君、三井(健)君、菅君、小野寺君、大川君、中江君、佐藤(伊)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、鈴木(善)君、新穂君、笹原君、鈴木(弥)君、佐藤(友)君、小松君、手塚君、富樫君、上野君、藪田君、高橋(辰)君

○会長報告 安藤会長

- ご療養中の鷺田克己君ご元氣になられて出席
- 4月定例理事会報告
 - 第5回クラブアッセンブリー
4月9日(火)例会場に於て
例会に引続き1時間半
残任期間の活動計画の具現について
 - 第6回クラブアッセンブリー並びに
新任理事、役員、委員長引継懇談
6月19日(水)産業会館に於て
16.30~20.00
本年度活動の反省と活動報告起稿準備
 - 最終例会並びに慰労会
6月25日(火)例会時間変更
18.00~20.30 於 ひさごや
- ロータリー財団寄附
張紹淵君より、このたび故三浦岩治郎君と故池内方平君の追悼の意味で財団宛3万円宛、合計6万円のご寄附を受けました。重ね重ねの篤志に心から敬意を表します。
財団では「メモリアル、コントリビューター」としての取扱われることと思えます。

○幹事報告 小松幹事

- 地区大会記念誌発送に対する礼状
第350地区ガバナー中林君外

2. 例会変更

- 寒河江クラブ
4月4日12:30より場所変更
寒河江文化センター内 中央公民館
- 認証状伝達式
札幌真駒内クラブ
6月26日 真駒内パークホテル
13:00より 登録料 ¥10,000
- 会報到着
館代南、八戸

○ゲストスピーチ 富樫茂八君

- 市民屋内温水プールが3月より開場になり非常に賑わっている。
- スウィミングクラブがハワイ遠征に於て輝かしい成果を得、尚今後の期待を望みたい。
- ハワイの会場に於て国旗国歌についての国民の姿勢についてのご意見

○ロータリー情報示説板

大川喜一君
張紹淵君
山本隆男君

クラブ奉仕

77. 会員組織における職業分類の原則とはどういうことですか?
クラブの正会員の組織は職業における各分類から各1名を以て構成しなければならないということであり、但しこの場合新聞業及び宗教両分類は例外であり、又アディショナル正会員の規定もその例外。
78. 何故ロータリーはクラブの会員を各職業分類から唯一人ということに制限するのですか?
(新聞業及び宗教分類を除いて)
その主な理由は次の如くであります。
 - それによりクラブをしてその都市の職業生活の真の横断面たらしめることができ、そして一つの事業グループによって支配されることを防止するからであります。
 - 興味を同じくするもの同志の親睦でなく、多岐に亘る関心の上立つ親睦を築くからであります。